

## 平成29年度 第1回 庄原市総合教育会議次第

と き 平成30年2月8日（木）15:00～

ところ 庄原市役所本庁5階第2委員会室

### 1 開会

### 2 説明事項

- ・ 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画に伴う今後の取り組み
- ・ 意見交換

### 3 その他意見交換

### 4 閉会

## 庄原市総合教育会議構成員名簿

職 名	氏 名
市 長	木山 耕三
教 育 長	牧原 明人
教育委員 (教育長職務代理者)	末信 丈夫
教育委員	横山 和明
教育委員	神本 久美
教育委員	立花 有佐

## 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画について

教育部教育総務課

### 1 これまでの経緯

- 平成 28 年 5 月 30 日  
「庄原市適正配置検討委員会」を設置し、学校再編に関する基本方針や基準などを検討  
(検討委員会全 6 回開催)
- 平成 28 年 12 月 20 日  
「庄原市適正配置検討委員会」から提言を受ける。
- 平成 28 年 12 月 22 日  
平成 28 年第 13 回教育委員会議において「庄原市適正配置検討委員会」の提言を説明
- 平成 29 年 2 月～  
次の会議・協議において、計画案の検討・協議・報告を行う。
  - ・ 市長協議 (6/8、7/10、7/25、11/29、12/6)
  - ・ 事務副市長協議 (7/6、9/6、11/29、12/6)
  - ・ 政策企画会議 (8/8、8/30、9/12)
  - ・ 教育行政推進調整会議 (6/9、8/28、10/13、11/8、12/6、H30 1/12)
  - ・ 教育委員会議 (3/29、5/26、6/26、7/21、8/18、9/15、10/23、11/17、12/13)
  - ・ 定例校長会議 (6/19、10/3、11/24、12/12、H30 1/15)
  - ・ 教育民生調査会 (10/26)
  - ・ 議員全員協議会 (11/2、11/24)
- 平成 30 年 1 月 19 日  
平成 30 年第 1 回教育委員会議で計画案を承認、計画を策定 ⇒ **別冊 1・2**

### 2 スケジュール

#### 平成 29 年度

- ① 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画の検討
- ② 庁内会議による協議・検討
- ③ 議会説明
- ④ 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画の策定
- ⑤ 保護者や地域住民などに説明

#### 平成 30 年度～

庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画に基づき、計画的に実施 ⇒ **資料 1**

### 3 計画進行の懸案事項

- ・ 複式学級解消による教育効果
- ・ 保護者・地域との協議
- ・ 児童・生徒の環境への対応
- ・ 通学方法・支援
- ・ 学校単位の文化・芸術活動の継続

学校の適正規模・適正配置の検討（スケジュール）

具体的施策	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	備考
適正配置基本計画策定											
第1グループ		説明会	説明会 準備	準備 統合							
①庄原小（川北小）											
②西城小（美古登小）											
③東城小（八幡小・栗田小）											
④口南小（口北小）											
第2グループ				説明会	説明会 準備	準備 統合					
①庄原小（永末小・高小）											
②板橋小（峰田小）											
③東小（山内小）											
④東城小（小奴可小）											
第3グループ(中学校)							説明会	説明会 準備	準備 統合	準備 統合	
①庄原中（比和中・総領中）											
②口和中（高野中）											

庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画 スケジュール（案）

年度	平成29年度			平成30年度												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
計画策定																
市長報告																
校長会報告																
管理職連絡会議																
総合教育会議																
議会報告																
広報しようばら																
説明会 市P連																
区長会																
日程調整																
第1グループ保護者																
1回目説明 第2グループ保護者																
〃 第3グループ保護者																
〃 第1グループ地域																
〃 第2グループ地域																
〃 第3グループ地域																

学校PTA説明①グループ  
 統合予定校 統合先校  
 川北小 → 庄原小  
 美古登小 → 西城小  
 八幡小 → 東城小  
 粟田小 → 東城小  
 口北小 → 口南小  
 H33. 4. 1適正配置予定

学校PTA説明②グループ  
 統合予定校 統合先校  
 永末小 → 庄原小  
 高小 → 庄原小  
 峰田小 → 板橋小  
 山内小 → 東小  
 小奴可小 → 東城小  
 H35. 4. 1適正配置予定

学校PTA説明③グループ  
 統合予定校 統合先校  
 比和中 → 庄原中  
 総領中 → 庄原中  
 高野中 → 口和中  
 H39. 4. 1適正配置予定

※第②③グループについては要望があれば説明会を行う。

～次代を担う子供たちが輝く教育の実現に向けて～

**庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画**

平成 30 年 1 月

庄原市教育委員会



はじめに

近年、私たちの生活は、科学や情報通信技術の発展、国際化の進展、価値観の多様化などにより大きく変貌してきました。とりわけ、ICT機器・AIの進化が生活・仕事に及ぼす影響やグローバル化の波及は膨らみ続け、これからもその変化のスピードは加速していくものと思われま。また、本市における人口減少や少子高齢化傾向にある現状がますます深刻な状況になることが予想されています。

今日のように激しく変動する社会にあつて、本市では教育の基本理念を「ふるさとの学びを原動力として高い志を持ち続け活躍できる人材の育成」として、学校教育では、たくましく生き抜くことのできる資質・能力を身に付け、主体的に学び続ける児童生徒の育成を目指しています。

特に、今後も児童生徒の減少が続いていく中にあつては、児童生徒が同世代間において、多様な考えに触れず、切磋琢磨する機会の減少が見込まれることもあり、知識・技能の習得はもちろんのこと、思考力・判断力・表現力等の育成をはじめ、社会性やコミュニケーション能力、情報活用力や新たな価値の創造力など、10年後、20年後を見据えた生きる力を着実に培うことが肝要です。

本市の小中学校は、平成17年3月に1市6町が合併した当時、小学校31校、中学校8校ありました。その後、合併前の市町単位で策定された適正配置計画による小中学校の統廃合が行われ、平成22年3月の再編をもって一旦終了し、小学校19校、中学校7校となっています。また、児童生徒数は、合併当時3,163人いましたが、平成29年5月現在では、2,426人となっており、この12年間で、737人減少しています。さらに、小学校においては、複式学級を有する小規模校がここ2年間、約6割にもなっており、今後も複式学級は増える見込みです。

こうした社会や学校状況、児童生徒に付ける力、あるいは将来の姿等を鑑み、児童生徒にとっての学校教育はどうあるべきかを考えたとき、適正配置の検討は避けては通れない喫緊の課題となっています。

昨年、5月に設置した学校適正配置検討委員会において、児童生徒にとって望ましい教育や求められる教育を行っていくために、どういった環境づくりをすればよいかなど、「本市の小中学校の適正な規模及び配置に関する基本的な考え方」を調査・検討していただき、12月20日に、委員会の協議をまとめ提言をいただきました。

教育委員会としては、この学校適正配置検討委員会の提言を基本に、これまでの学校教育の現状や今後の児童生徒の推移、また、小規模校における「良い点や効果的と思われる事項」並びに「危惧される点や困難と思われる事項」などを検証し、このたび「庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画」をまとめました。

# 目 次

## 第 1 計画策定の趣旨等

- 1 適正規模・適正配置の必要性と計画策定の趣旨 . . . . . 1
- 2 計画の目的 . . . . . 1

## 第 2 庄原市立小中学校の状況

- 1 適正配置に関する現状 . . . . . 1
  - (1) 児童生徒数の現状と今後の推計 . . . . . 1
  - (2) 学校規模等の現状[小学校] . . . . . 2  
[中学校] . . . . . 13
  - (3) 児童生徒の通学状況 . . . . . 17
- 2 本市における小中学校小規模校の課題等 . . . . . 18
- 3 学校適正規模・適正配置の必要性及び効果・課題 . . . . . 20

## 第 3 学校適正規模・適正配置の方針

- 1 学校適正規模・適正配置に関する基本的な考え方 . . . . . 22
- 2 適正配置の対象校 . . . . . 22
- 3 適正配置の方法 . . . . . 22
- 4 適正配置の具体的な取り組み . . . . . 23
  - [小学校] . . . . . 24
  - [中学校] . . . . . 26
- 5 適正配置に関する留意事項 . . . . . 27
- 6 計画の期間 . . . . . 28
- 7 計画の見直し . . . . . 28
- 8 推進のスケジュール . . . . . 28

## 資料

- ・(参考) 庄原市学校適正配置検討委員会の提言
- ・資料 1 学校の適正規模・適正配置の検討(スケジュール)
- ・資料 2 平成 29 年度学校の適正規模・適正配置の検討(スケジュール)
- ・資料 3 平成 29 年度児童生徒数一覧表
- ・資料 4 庄原市内の小・中学校再編の状況
- ・資料 5 庄原市立小・中学校の児童生徒数の推移(H22～H29)
- ・資料 6 庄原市立小・中学校の児童生徒数の推計(H29～H35)
- ・資料 7 庄原市立小・中学校の児童生徒数の推移(H22～H35)
- ・資料 8 庄原市立小学校の児童数の推計(地域別)
- ・資料 9 庄原市出生数の推移
- ・資料 10 通学方法別児童数一覧
- ・資料 11 通学方法別生徒数一覧
- ・資料 12 庄原市内小中学校位置図



## 第1 計画策定の趣旨等

### 1 適正規模・適正配置の必要性と計画策定の趣旨

公立小中学校の適正規模・適正配置は、設置者である市町が、教育効果や地域の実情等を総合的に判断しながら実施しており、本市においても、合併前後に旧市町単位で策定した適正配置計画による統廃合を平成22年3月末日の再編をもって一旦終了し、現在の小学校19校、中学校7校の体制となっている。しかし、その後も児童生徒数は減少傾向にあり、「第2期庄原市長期総合計画」や「庄原市教育振興基本計画」において、児童生徒数の減少による小規模校の課題に対応するため、学校再編に関する基本計画や基準など、学校の適正な規模・配置について検討を進めるとしている。

全国的にも児童生徒の減少による学校の小規模化が進む中、平成27年1月、国から「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が示されたことや本市の現状、今後の児童生徒数の推移などを鑑み、本市では、平成28年5月に「庄原市学校適正配置検討委員会」（以後、「検討委員会」とする）を設置して調査・検討を行った。12月にはこの検討委員会から提言を受け、その提言に基づいて学校の規模・配置についての基本的な考え方や具体的な方策を検討し、その取り組みを円滑に進めるため、庄原市立学校適正配置基本計画を定めるものである。

### 2 計画の目的

少子化に伴い、小中学校の小規模化が進行する中、将来にわたって義務教育の教育水準の維持・向上を図り、子供たち一人一人の「生き抜く力」を育てることができる、よりよい教育環境を提供することを目的とする。

## 第2 庄原市立小中学校の状況

### 1 適正配置に関する現状

#### (1) 児童生徒数の現状と今後の推計

平成29年5月1日現在の児童生徒数は、2,426人である。合併前後に旧市町単位で策定した適正配置計画による学校再編完了後の平成22年5月1日現在の2,758人から332人減少している。また、将来推計では平成35年度には2,098人となり、平成29年度からの6年間で、328人減少する見込みである。

表1 児童生徒数の推移と将来推計

(単位：人)

区分	平成 22 年度 (前回再編後)	増減 (実績)	平成 29 年度 (現状)	増減 (見込み)	平成 35 年度 (将来推計)
小学校	1,791	△187	1,604	△216	1,388
中学校	967	△145	822	△112	710
合計	2,758	△332	2,426	△328	2,098

※平成 29 年度までの人数は、公立学校基本数報告（各 5 月 1 日現在）による

※将来推計における児童生徒数は、平成 29 年 5 月 1 日現在の県教育委員会指定方法による

## (2) 学校規模等の現状

## [小学校]

平成 29 年 5 月 1 日現在の小学校数は、19 校である。19 校のうち、国が示す学校規模の標準（12～18 学級）を満たす学校は 1 校のみ（12 学級）。残りの 18 校は標準を下回る規模（11 学級以下、以下「小規模校」）であり、全体の約 95%を占めている。

小規模校の内訳は、9 学級が 1 校、6 学級が 6 校、5 学級が 5 校、4 学級が 4 校、3 学級が 2 校となっている。複式学級を有する学校（5 学級以下）は 11 校で、全体の約 6 割を占めている。また、児童数が最も少ない学校は 21 人、最も少ない複式学級は 4 人である。なお、通常学級の児童数 0 人や 1 人、2 人の学校がある。教員配置については、小規模校の教職員標準定数の関係で、教頭が担任を兼務している学校が 3 校ある。

表2 庄原市立小学校における学校規模別学校数等（平成 29 年 5 月 1 日現在）

区分	小規模			標準規模	大規模
	1～3 学級	4～5 学級	6～11 学級	12～18 学級	19 学級～
学校数	2 校	9 校	7 校	1 校	—
1 校当たりの 教職員標準定数	1～2 人	4～5 人	6～12 人	13～20 人	21 人～
1 校の児童数	20～21 人	21～58 人	53～238 人	325 人	—
1 学年の児童数	1～8 人	4～14 人	4～52 人	46～63 人	—
1 学級の児童数(単式)	—	4～14 人	4～39 人	23～32 人	—
1 学級の児童数(複式)	4～10 人	5～16 人	—	—	—

※標準規模は、学校教育法施行規則 41 条による

※学級数及び 1 学級の児童数は、特別支援学級を除く

※1 校当たりの教職員標準定数は、指導教諭・教諭の数である

[各小学校の児童数及び学級数（特別支援学級の児童は除く）]

① 庄原小学校

児童数は、年度により多少の増減はあるものの、減少傾向にある。学級数は、全ての学年で2学級を維持していくものと想定される。

現在、12人の遠距離通学児童（旧田川小学校区）がスクールバスを利用し通学している。また、周辺の学校区域から指定学校を変更して通学している児童が57人いる。

平成 29 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	50	2
2	56	2
3	61	2
4	49	2
5	46	2
6	63	2
計	325	12



平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	48	2
2	50	2
3	45	2
4	54	2
5	49	2
6	50	2
計	296	12

② 永末小学校

児童数は、減少傾向にあるが、指定学校変更により庄原小学校へ通学する児童が増えており予測が困難である。現状の予測では、今後も複式学級が恒常的に存在することが想定される。

平成 29 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	4	1
2	12	1
3	4	1
4	10	
5	7	1
6	6	
計	43	4



平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	5	1
2	6	1
3	5	1
4	7	
5	6	1
6	7	
計	36	4

③ 高小学校

児童数は減少傾向にある。学級数は、既に1・2学年が複式学級であり、今後も複式学級が恒常的に存在することが想定される。

現在、6人の遠距離通学児童（旧高南小学校区）がスクールバスを利用し通学している。

平成 29 年度 (通常学級)			→	平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数		学年	人数	学級数
1	2	1	1	5	1	
2	5		2	5	1	
3	9	1	3	5	1	
4	8	1	4	6		
5	10	1	5	5	1	
6	8	1	6	6		
計	42	5	計	32	4	

④ 峰田小学校

児童数は減少傾向にある。現状では、学級数は1学年1学級であるが、今後は複式学級が恒常的に存在することが想定される。

現在、21人の遠距離通学児童（旧本小学校区）がスクールバスを利用し通学している。

平成 29 年度 (通常学級)			→	平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数		学年	人数	学級数
1	8	1	1	7	1	
2	8	1	2	8	1	
3	10	1	3	7	1	
4	7	1	4	9		
5	9	1	5	8	1	
6	11	1	6	9	1	
計	53	6	計	48	5	

⑤ 板橋小学校

児童数は減少傾向にあるが、学級数に大きな変動はなく1学年1学級で推移するものと想定される。

現在、高門地域の児童6人は生活交通バスで通学、23人の遠距離通学児童（旧上谷小学校区及び旧実留小学校区）がスクールバス及びスクールタクシーを利用し通学している。また、周辺の学校区域から指定学校を変更して通学している児童が17人いる。

平成 29 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	16	1
2	26	1
3	24	1
4	35	1
5	32	1
6	23	1
計	156	6



平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	19	1
2	21	1
3	18	1
4	22	1
5	21	1
6	21	1
計	122	6

⑥ 東小学校

児童数は減少傾向にあるが、学級数に大きな変動はなく1学年1学級で推移するものと想定される。

平成 29 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	16	1
2	23	1
3	14	1
4	25	1
5	21	1
6	24	1
計	123	6



平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	15	1
2	16	1
3	16	1
4	19	1
5	21	1
6	21	1
計	108	6

⑦ 山内小学校

児童数は減少傾向にある。学級数は、3・4学年が複式学級であるが、年度によっては1学年1学級になると想定される。

現在、1人の遠距離通学児童（旧水越小学校区）がスクールタクシーを利用し通学している。

平成 29 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数
1	6	1
2	14	1
3	6	1
4	10	
5	10	1
6	11	1
計	57	5



平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数
1	7	1
2	8	1
3	7	1
4	10	1
5	9	1
6	10	1
計	51	6

⑧ 川北小学校

児童数は、減少傾向にあり、また、指定学校変更により庄原小学校へ通学する児童も多いため予測より減少していくものと想定される。現状の予測では、今後も複式学級のみの学級編制となることが想定される。

平成 29 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数
1	1	1
2	3	
3	2	1
4	5	
5	8	1
6	2	
計	21	3



平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数
1	1	1
2	1	
3	2	1
4	4	
5	2	1
6	4	
計	14	3

⑨ 西城小学校

児童数は大きく減少していくことが想定されるが、当面、学級数に変動はなく1学年1学級で推移するものと想定される。

現在、19人の遠距離通学児童がスクールバス1路線、スクールタクシー1路線、生活交通バス3路線により通学している。

平成 29 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	10	1
2	10	1
3	16	1
4	13	1
5	18	1
6	22	1
計	89	6



平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	10	1
2	11	1
3	10	1
4	12	1
5	12	1
6	12	1
計	67	6

⑩ 美古登小学校

児童数は大きく減少していくことが想定され、今後は、複式学級が恒常的に存在することが想定される。

現在、19人の遠距離通学児童がスクールタクシー2路線、生活交通バス3路線により通学している。

平成 29 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	11	1
2	5	1
3	4	1
4	19	1
5	6	1
6	16	1
計	61	6



平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	5	1
2	6	1
3	6	1
4	9	
5	8	1
6	8	
計	42	4

⑪ 小奴可小学校

児童数は減少傾向にある。学級数は、3・4学年、5・6学年が複式学級であり、今後も、恒常的に存在することが想定される。

現在、17人の遠距離通学児童（旧内堀小学校区）が、スクールバス及びスクールタクシーにより通学している。

平成 29 年度 (通常学級)			平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	9	1	1	6	1
2	6	1	2	5	1
3	5	1	3	5	1
4	8		4	6	
5	10	1	5	6	1
6	5		6	6	
計	43	4	計	34	4

⑫ 八幡小学校

児童数は、減少傾向にあり、今後も複式学級のみ学級編制で推移していくと想定される。

現在、7人の遠距離通学児童（帝釈地区の一部）が、スクールタクシーにより通学している。

平成 29 年度 (通常学級)			平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	2	1	1	2	1
2	2		2	2	
3	4	1	3	2	1
4	4		4	3	
5	2	1	5	2	1
6	6		6	3	
計	20	3	計	14	3



⑬ 栗田小学校

児童数に大きな変動はないが、今後も複式学級のための学級編制で推移していくと想定される。

平成 29 年度(通常学級)			平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	5	1	1	3	1
2	4	1	2	3	
3	2	1	3	3	1
4	3		4	4	
5	7	1	5	3	1
6	0	0	6	4	
計	21	4	計	20	3

⑭ 東城小学校

児童数は大きく減少していくことが想定される。学級数についても、全ての学年が1学級になると想定される。

現在、46人の遠距離通学児童が、スクールバス4路線、スクールタクシー5路線を利用し通学している。

平成 29 年度(通常学級)			平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	39	2	1	34	1
2	37	2	2	34	1
3	38	1	3	29	1
4	52	2	4	38	1
5	33	1	5	36	1
6	39	1	6	35	1
計	238	9	計	206	6

⑮ 口南小学校

平成 35 年度までは、児童数に大きな増減はないと想定される。現状では、5・6 学年が複式学級となっているが、年度によっては 1 学年 1 学級となることが想定される。

現在、13 人の遠距離通学児童が、路線バスを利用し通学している。

平成 29 年度(通常学級)			平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	13	1	1	9	1
2	11	1	2	10	1
3	9	1	3	9	1
4	10	1	4	10	1
5	9	1	5	10	1
6	6		6	10	1
計	58	5	計	58	6

⑯ 口北小学校

平成 35 年度までは、児童数に大きな増減はないと想定される。現状では、3・4 学年、5・6 学年が複式学級となっており、今後も複式学級が恒常的に存在することが想定される。

現在、8 人の遠距離通学児童が、スクールバス 2 路線、スクールタクシー 2 路線を利用し通学している。

平成 29 年度(通常学級)			平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	5	1	1	7	1
2	10	1	2	8	1
3	10	1	3	7	1
4	4		4	7	
5	6	1	5	6	1
6	4		6	6	
計	39	4	計	41	4

⑰ 高野小学校

児童数は大きく減少していくことが想定されるが、当面、学級数に変動はなく1学年1学級で推移するものと想定される。

現在、48人の遠距離通学児童が、スクールバス4路線を利用し通学している。

平成 29 年度 (通常学級)			平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	13	1	1	11	1
2	13	1	2	12	1
3	13	1	3	11	1
4	12	1	4	13	1
5	12	1	5	11	1
6	20	1	6	12	1
計	83	6	計	70	6

⑱ 比和小学校

児童数は減少傾向にある。現状では、3・4学年が複式学級となっているが、今後も複式学級が恒常的に存在することが想定される。

現在、27人の遠距離通学児童が、スクールバス3路線、生活交通バス1路線を利用し通学している。

平成 29 年度 (通常学級)			平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	6	1	1	6	1
2	4	1	2	6	1
3	11	1	3	6	1
4	4		4	7	
5	9	1	5	7	1
6	9	1	6	7	
計	43	5	計	39	4

⑱ 総領小学校

平成 35 年度までは、児童数に大きな増減はないと想定される。現状では、3・4 学年が複式学級となっているが、年度によっては 1 学年 1 学級となることが想定される。

現在、28 人の遠距離通学児童が、スクールバス 3 路線を利用し通学している。

平成 29 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	10	1
2	13	1
3	9	1
4	7	
5	7	1
6	11	1
計	57	5



平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数
1	9	1
2	10	1
3	9	1
4	10	1
5	10	1
6	10	1
計	58	6

## [中学校]

平成 29 年 5 月 1 日現在の中学校数は、7 校である。7 校のうち、国が示す学校規模の標準（12～18 学級）を満たす学校は 1 校のみ（12 学級）。残りの 6 校は標準を下回る規模（11 学級以下、以下「小規模校」）であり、全体の約 86%を占めている。小規模校の内訳は、6 学級が 1 校、3 学級が 5 校となっている。また、生徒数が最も少ない学校は 26 人、最も少ない学年は 7 人である。教員配置において、1 校当たり 3 学級の学校は 5 校あり、教職員標準定数が、教科数に達していないため、非常勤講師で対応している。

表 3 庄原市立中学校における学校規模別学校数等（平成 29 年 5 月 1 日現在）

区分	小規模			標準規模	大規模
	1～3 学級	4～5 学級	6～11 学級	12～18 学級	19 学級～
学校数	5 校	—	1 校	1 校	—
1 校当たりの教職員標準定数	4～7 人	7～8 人	9～17 人	18～28 人	29 人～
1 校の生徒数	26～88 人	—	178 人	405 人	—
1 学年の生徒数	7～36 人	—	55～64 人	127～149 人	—
1 学級の生徒数	7～34 人	—	25～30 人	31～36 人	—

※標準規模は、学校教育法施行規則 79 条による

※学級数及び 1 学級の生徒数は、特別支援学級を除く

※1 校当たりの教職員標準定数は、教諭の数である

## [各中学校の生徒数及び学級数（特別支援学級の生徒は除く）]

### ① 庄原中学校

生徒数は大きく減少していくことが想定される。学級数についても、1 学年 3 学級に減少する年度も想定される。

現在、249 人の遠距離通学生徒が、路線バス及び自転車を利用し通学している。

平成 29 年度(通常学級)			➡	平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数		学年	人数	学級数
1	126	4	1	91	3	
2	144	4	2	138	4	
3	126	4	3	118	3	
計	396	12	計	347	10	

② 西城中学校

生徒数は大きく減少していくことが想定される。

現在、60人の遠距離通学生徒が、路線バス、スクールバス、スクールタクシー及び自転車を利用し通学している。

平成 29 年度(通常学級)			平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	26	1	1	26	1
2	26	1	2	18	1
3	34	1	3	21	1
計	86	3	計	65	3

③ 東城中学校

生徒数は大きく減少していくことが想定される。学級数についても、平成 35 年度までは 1 学年 2 学級を維持するが、その後は 1 学年 1 学級となる年度も想定される。

現在、85人の遠距離通学生徒が、路線バス及び自転車を利用し通学し、12人が寄宿舎を利用している。

平成 29 年度(通常学級)			平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	51	2	1	46	2
2	59	2	2	45	2
3	59	2	3	47	2
計	169	6	計	138	6

④ 口和中学校

生徒数は平成 35 年度までは増加していく見込みであるが、その後は減少していくことが想定される。

現在、全員がスクールタクシー及び自転車を利用し、徒歩で通学している生徒はいない。

平成 29 年度(通常学級)			平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	14	1	1	18	1
2	14	1	2	20	1
3	20	1	3	20	1
計	48	3	計	58	3

⑤ 高野中学校

生徒数は減少傾向にある。

現在、28 人の遠距離通学生徒が、スクールバス及び自転車を利用し通学している。

平成 29 年度(通常学級)			平成 35 年度(通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	12	1	1	11	1
2	14	1	2	11	1
3	11	1	3	10	1
計	37	3	計	32	3

⑥ 比和中学校

生徒数は減少傾向にあり、今後も1学年10人以下の学年が想定される。  
現在、19人の遠距離通学生徒が、生活交通バス及び自転車を利用し通学している。

平成 29 年度 (通常学級)			平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	7	1	1	6	1
2	12	1	2	4	1
3	7	1	3	11	1
計	26	3	計	21	3

⑦ 総領中学校

生徒数は減少傾向にあり、今後も1学年10人以下の学年が想定される。  
現在、34人の遠距離通学生徒が、スクールバス及び自転車を利用し通学している。

平成 29 年度 (通常学級)			平成 35 年度 (通常学級)		
学年	人数	学級数	学年	人数	学級数
1	8	1	1	8	1
2	13	1	2	11	1
3	17	1	3	8	1
計	38	3	計	27	3



### (3) 児童生徒の通学状況等

#### [小学校]

通学手段は、徒歩が最も多く 79.2%、以下スクールバス・スクールタクシーが 17.1%、路線バスが 3.2%、自家用車が 0.5%となっている。遠距離通学の児童に対しては、教育委員会が通学距離や対象地域を定め、スクールバス等の運行による通学手段の確保や、通学補助金の交付による保護者の負担軽減などの支援を行っている。

表4 庄原市立小学校における通学手段と距離・時間の状況(平成29年5月1日現在)

通学手段	人数	通学距離	通学時間
徒歩	1,182人	最長 5.2km	最長 60分
スクールバス・スクールタクシー	255人	最長 20.0km	最長 50分
自家用車	7人		
路線バス・生活交通バス	48人		
合計	1,492人	※指定学校変更等を除く	

#### [中学校]

通学手段は、自転車最も多く 34.4%、以下徒歩が 33.4%、路線バスが 18.7%、スクールバス・スクールタクシーが 6.5%、路線バスと自転車併用が 4.4%、自家用車が 1.2%、寄宿舎が 1.5%となっている。遠距離通学の生徒に対しては、教育委員会が通学距離や対象地域を定め、スクールバス等の運行による通学手段の確保や、通学補助金の交付による保護者の負担軽減などの支援を行っている。また、東城中学校においては、寄宿舎を設置し通学が困難な生徒の就学支援を行っている。

表5 庄原市立中学校における通学手段と距離・時間の状況(平成29年5月1日現在)

通学手段	人数	通学距離	通学時間
徒歩	273人	最長 4.5km	最長 60分
自転車	281人	最長 8.8km	最長 75分
路線バス・生活交通バス	153人	最長 18.0km	最長 60分
スクールバス・スクールタクシー	53人		
路線バスと自転車併用	36人		
自家用車	10人		
寄宿舎	12人		
合計	818人	※指定学校変更等を除く	

### [指定学校変更・区域外就学]

本市では「庄原市公立学校の通学区域に関する規則」により各小中学校の通学区域を定めている。指定された学校とは別の学校へ通学する場合、市内では「指定学校変更」、他市町村では「区域外就学」となり、いずれも特別な事情がある場合に限って、教育委員会が他の学校への通学を認めている。

教育委員会が、特別な事情と認める要件は次のとおりである。

- ア. 地理的な理由
- イ. 身体的な理由
- ウ. いじめへの対応
- エ. 部活動等学校独自の活動
- オ. その他教育委員会が相当と認める事由  
(例)：年度中途の転居の場合  
留守家庭の場合  
住所の移転が確定した場合

表6 指定学校変更・区域外就学の状況（平成29年5月1日現在）

区分	学校数	人数
小学校	13校	112人
中学校	3校	4人

## 2 本市における小中学校小規模校の課題等

本市の小中学校における小規模校の主な課題は、次のとおりである。

- 国の示す学校の標準規模を大きく下回る学校が多数存在しており、教育環境への影響が懸念されること。
- 国からも地域の実情に応じて、教育的な視点から少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策を検討・実施していくことが求められていること。
- 今後も少子化・学校の小規模化の進展が見込まれる中、少子化や学校の小規模化に伴う教育上の課題を検証し、本市における適正な学校規模や配置を検討していく必要があること。
- 小規模化により、教頭が担任を兼務したり、全ての教科の教員が配置されず非常勤で対応したりするなどの実態があること。
- 中学校の部活動において、希望する部がなく指定学校変更をしたり、自校ではチームが組めず他校と合同で活動したりしている実態があること。

**【小規模校における良い点・効果的と思われる事項】**

- 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- 異年齢の子供同士で教え合える環境ができる。
- 様々な活動でリーダーを務める機会が多くなる。
- 個別指導が行いやすい。
- 学校施設が余裕を持って使える。
- 小回りが利き、学校経営の柱を立てやすい。
- 学校状況を把握しやすいため、学校経営のマネジメントサイクルができやすい。
- 教員の目が届きやすい。
- 保護者や地域と連携しやすい。

**【小規模校における危惧される点・困難と思われる事項】**

- 児童生徒が切磋琢磨し、多様な考えから学び合う環境が作りにくい。
- 集団のなかでの自己主張や他者を尊敬する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力がつきにくい。
- 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- 複式学級における授業で子供の思考が止まったとき、サポートしきれない。
- 部活動の種類が限定される。
- 運動会・文化祭・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果に影響がでる。
- 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施が困難である。
- 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に工夫を要する。
- 複式学級においては、教員がかなりの力量をつけないと、教科のねらいを指導しきれない。
- 習熟度別指導、グループ別指導等の多様な指導方法をとることが困難となる。
- 教科別の教員に限られ、教員の力量を高める内容が作りにくい。
- 部活動の指導者確保が困難となる。

**【小規模校において教育環境へ配慮している事項】**

- 複式学級のある学校へ理科・社会の非常勤講師（市費）を配置し、複式学級を解消した指導を行っている。
- 複式・少人数指導推進加配（県費）を要望し、その配置に努め、指導方法の研究を継続している。
- 変則複式学級編制とならないよう加配（県費）要望を行い、措置されている。

### 3 学校適正規模・適正配置の必要性及び効果・課題

本市では教育の基本理念を「ふるさとの学びを原動力として高い志を持ち続け活躍できる人材の育成」として、学校教育では、たくましく生き抜くことのできる資質・能力を身に付け、主体的に学び続ける児童生徒の育成を目指している。

特に、今後も児童生徒の減少が続いていく中にあることは、児童生徒が同世代間において、多様な考えに触れず、切磋琢磨する機会の減少が見込まれることもあり、知識・技能の習得はもちろんのこと、思考力・判断力・表現力等の育成をはじめ、社会性やコミュニケーション能力、情報活用能力や新たな価値の創造力など、10年後、20年後を見据えた生きる力を着実に培うことが肝要である。

これからの社会や学校状況、児童生徒に付ける力、あるいは将来の姿等を鑑み、児童生徒にとっての学校教育はどうあるべきかを考えたとき、学校の適正規模・適正配置を行い教育環境の充実に努める必要がある。

#### 【児童生徒について期待される効果の例】

- 複式学級解消と多人数の中での環境において学習意欲が向上する。
- 多人数の活動・授業により教育活動が充実し、競争力が向上する。
- 新しい人間関係の構築や人間関係調整能力が育成される。
- お互いが高まろうとする競い合いや向上心が生まれる。
- 教師に対する依存心が減る。
- 社会性やコミュニケーション能力が高まる。
- 切磋琢磨する環境の中で学習意欲が向上する。
- 友人が増え、男女比の隔たりが少なくなる。
- 多様な意見に触れる機会が増える。
- 多様な進路が意識されるようになる。

#### 【指導体制・指導方法について期待される効果の例】

- 非常勤講師や教員の増員により指導内容が充実する。
- グループ学習やTT指導など多様な学習形態による教育が実践される。
- クラス替えが可能になる。
- より多くの教員が多面的な観点で指導できるようになる。
- 校内研修が活性化し、教員間で協力して指導にあたる意識や互いの良さを取り入れる意識が高まる。
- グループ学習や班活動が活性化し、授業で多様な意見を引き出せるようになる。
- 音楽、体育等における集団で行う教育活動、運動会や発表会、部活動等が充実する。
- 多人数指導や習熟度別指導などの多様な指導形態が可能になる。

**【保護者・地域について期待される効果の例】**

- 地域全体を学校区化することにより地域活動・交流事業が広域化される。
- 地域の活動を継続して行うことで参加が増える。
- 地域をあげての協力体制ができる。
- 地域の一体感が醸成される。
- 情報交換により保護者同士の緊密な連携・協力体制が構築される。
- 保護者同士の交流関係が広がる。

**【学校適正規模・適正配置により想定される課題の例】**

- 児童生徒にとっての環境変化への対応が必要となる。
- バス通学等による通学時間の増大及び徒歩通学でなくなれば体力低下が懸念される。
- バス運行の安全配慮が必要となる。

### 第3 学校適正規模・適正配置の方針

#### 1 学校適正規模・適正配置に関する基本的な考え方

##### (1) 適正規模について

小・中学校とも1学級あたりの児童生徒数は20人以上で、1学年の学級数は2学級以上が望ましい。なお、本市の実情を考慮した場合、1学年1学級の規模でもやむを得ない。

##### (2) 適正配置について

小学校は、児童の通学への影響を考慮しながら適正規模を確保するため、旧市町の区域内において学校の再編をし、特に単式学級編制につながる配置を行う。

中学校は、既に旧市町の区域内に1校の配置となっているが、適正規模を確保するため、旧市町の区域を越えた学校の再編を行う。

##### ①通学距離について

小・中学校ともに4km以上を遠距離通学とし、適切な方法による通学支援を検討する。

##### ②通学時間について

小・中学校ともに概ね1時間以内となるよう、適切な方法による通学支援を検討する。

##### ③通学区域について

学校の再編による通学区域の変更は当面行わない。ただし、通学時間等の通学実情を考慮する場合を除く。

##### ④指定学校変更・区域外就学について

規則により各小中学校の通学区域を定めているが、特別な事情がある場合には、「指定学校変更」又は「区域外就学」により、指定された学校とは別の学校への通学を認める。ただし、通学支援の対象としない。

##### ⑤学校選択制について

自由学区や特認校等の学校選択制は現時点では導入しない。

#### 2 適正配置の対象校

学校規模の適正化を図るためには、小規模校が統合の対象となるが、複式学級や少人数学級の解消を優先する。

#### 3 適正配置の方法

統合先は、統合時、並びにその後予想される児童生徒数の多い学校を基本とし、施設状況等も含め、総合的に判断する。

#### 4 適正配置の具体的な取り組み

##### (1) 小・中学校適正配置計画

地域	小学校		中学校	
	現在の学校	統合後の学校	現在の学校	統合後の学校
庄原	庄原小学校	庄原小学校	庄原中学校	庄原中学校
	永末小学校			
	高 小学校			
	川北小学校			
	峰田小学校	板橋小学校		
	板橋小学校			
	東 小学校	東 小学校		
	山内小学校			
比和	比和小学校	比和小学校	比和中学校	
総領	総領小学校	総領小学校	総領中学校	
西城	西城小学校	西城小学校	西城中学校	西城中学校
	美古登小学校			
東城	小奴可小学校	東城小学校	東城中学校	東城中学校
	八幡小学校			
	栗田小学校			
	東城小学校			
口和	口南小学校	口南小学校	口和中学校	口和中学校
	口北小学校			
高野	高野小学校	高野小学校	高野中学校	

[小学校] 単位は人。( )内は複式学級を含む基準学級数とする。

(ア) 庄原地域

① 庄原小学校・永末小学校・高小学校・川北小学校を統合

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
庄原小学校	329	316	318	322	307	302	300	校舎：H27、木造(一部RC造)、 4,200 m <sup>2</sup> 屋体：H29、RC造、1,120 m <sup>2</sup>
永末小学校	44 (4)	44 (4)	43 (4)	41 (4)	42 (4)	36 (4)	37 (4)	校舎：S55・H5、RC造、1,062 m <sup>2</sup> 屋体：S56、S造、299 m <sup>2</sup>
高小学校	42 (5)	40 (4)	35 (4)	33 (4)	29 (4)	29 (4)	32 (4)	校舎：H4、RC造、1,891 m <sup>2</sup> 屋体：H4、S造、528 m <sup>2</sup>
川北小学校	21 (3)	25 (3)	19 (3)	17 (3)	17 (3)	14 (3)	14 (3)	校舎：H10、RC造、1,954 m <sup>2</sup> 屋体：H10、RC造、554 m <sup>2</sup>
合計	436	425	415	413	395	381	383	

・利用校舎…庄原小学校

② 峰田小学校と板橋小学校を統合

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
峰田小学校	53	51 (4)	50 (5)	52 (5)	49 (5)	49 (5)	48 (5)	校舎：S57、RC造、1,621 m <sup>2</sup> 屋体：H9、RC造、554 m <sup>2</sup>
板橋小学校	158	156	145	132	126	121	124	校舎：H2、RC造、1,890 m <sup>2</sup> 屋体：H2、S造、527 m <sup>2</sup>
合計	211	207	195	184	175	170	172	

・利用校舎…板橋小学校

③ 東小学校と山内小学校を統合

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
東小学校	128	126	125	120	122	114	113	校舎：S54、RC造、2,852 m <sup>2</sup> 屋体：S55、S造、600 m <sup>2</sup>
山内小学校	58 (5)	57	57 (5)	57 (5)	59 (5)	51 (5)	52 (5)	校舎：S60、RC造、1,874 m <sup>2</sup> 屋体：H7、S造、528 m <sup>2</sup>
合計	186	183	182	177	181	165	165	

・利用校舎…東小学校



(イ) 西城地域

① 西城小学校と美古登小学校を統合

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
西城小学校	91	81	75	74	68	69	69	校舎：S62、RC造、2,552 m <sup>2</sup> 屋体：S63、RC造、798 m <sup>2</sup>
美古登小学校	62	54 (5)	58 (5)	48 (4)	51 (5)	52 (4)	43 (4)	校舎：S32・S33、木造、1,248 m <sup>2</sup> 屋体：S44、S造、351 m <sup>2</sup>
合計	153	135	133	122	119	132	112	

・利用校舎…西城小学校

(ウ) 東城地域

① 小奴可小学校・八幡小学校・栗田小学校・東城小学校を統合

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
小奴可小学校	43 (4)	44 (4)	40 (4)	38 (4)	38 (4)	37 (4)	34 (4)	校舎：H3、RC造、1,530 m <sup>2</sup> 屋体：H5、S造、500 m <sup>2</sup>
八幡小学校	22 (3)	19 (3)	19 (3)	18 (3)	16 (3)	16 (3)	16 (3)	校舎：S52、RC造、1,827 m <sup>2</sup> 屋体：S53、S造、468 m <sup>2</sup>
栗田小学校	22 (4)	26 (4)	22 (3)	23 (3)	24 (3)	23 (3)	21 (3)	校舎：H5、RC造、1,300 m <sup>2</sup> 屋体：S43、S造、377 m <sup>2</sup>
東城小学校	242	238	240	227	217	214	210	校舎：H25・H9、木造・RC造、 4,012 m <sup>2</sup> 屋体：H14、S造、1,000 m <sup>2</sup>
合計	329	327	321	306	295	290	281	

・利用校舎…東城小学校

(エ) 口和地域

① 口南小学校と口北小学校を統合

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
口南小学校	62 (5)	66	67	67	67	66	62	校舎：S61、RC造、1,772 m <sup>2</sup> 屋体：S62、S造、611 m <sup>2</sup>
口北小学校	40 (4)	42 (4)	42 (4)	46 (4)	43 (4)	41 (4)	42 (4)	校舎：S59、RC造、1,585 m <sup>2</sup> 屋体：H3、S造、583 m <sup>2</sup>
合計	102	108	109	113	110	107	104	

・利用校舎…口南小学校

(オ) その他地域

高野小学校・比和小学校・総領小学校は当面現状どおりとする

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
高野小学校	84	76	75	76	74	73	71	校舎：H10、RC造、1,873 m <sup>2</sup> 屋体：H11、RC造、920 m <sup>2</sup>

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
比和小学校	45 (5)	43 (4)	41 (4)	44 (4)	39 (4)	41 (4)	41 (4)	校舎：H5、RC造、1,839 m <sup>2</sup> 屋体：H21、S造、667 m <sup>2</sup>

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
総領小学校	58 (5)	57 (5)	60 (5)	63	63	60	59	校舎：S56、RC造、1,996 m <sup>2</sup> 屋体：S57、S造、434 m <sup>2</sup>

[中学校]

① 庄原中学校・比和中学校・総領中学校を統合

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
庄原中学校	405	417	405	415	395	401	356	校舎：H23、RC造・木造、7,382 m <sup>2</sup> 屋体：H24、RC造、1,452 m <sup>2</sup> 武道場：H24、RC造、512 m <sup>2</sup>
比和中学校	26	28	25	22	24	19	21	校舎：H8・H1・S51、RC造・S造、1,932 m <sup>2</sup> 屋体：S48、S造、732 m <sup>2</sup>
総領中学校	38	32	25	23	20	25	27	校舎：S56、RC造、1,838 m <sup>2</sup> 屋体：S56、S造、731 m <sup>2</sup>
合計	469	477	455	460	439	445	404	

・利用校舎…庄原中学校

② 口和中学校と高野中学校を統合

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備考
口和中学校	49	41	44	46	54	57	59	校舎：H16、RC造、2,574 m <sup>2</sup> 屋体：H16、RC造、1,171 m <sup>2</sup>
高野中学校	38	44	41	38	32	32	33	校舎：S56・S58、RC造、2,105 m <sup>2</sup> 屋体：S58、RC造、763 m <sup>2</sup> 武道場：S63、RC造、574 m <sup>2</sup>
合計	87	85	85	84	86	89	92	

・利用校舎…口和中学校

③ 西城中学校と東城中学校は当面現状どおりとする

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備 考
西城中学校	88	94	93	100	81	74	67	校舎：S47、RC造、2,791 m <sup>2</sup> 屋体：S50、S造、858 m <sup>2</sup>

対象学校	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	備 考
東城中学校	178	166	155	165	165	162	147	校舎：S54、RC造、3,701 m <sup>2</sup> 屋体：S55、S造、1,040 m <sup>2</sup> 寄宿舍：S54、RC造、896 m <sup>2</sup>

## 5 適正配置に関する留意事項

### (1) 保護者・地域住民との協議

- ・保護者及び地域住民の声を聞くなど、地域の実情把握に努める。
- ・保護者及び地域住民へ説明や協議を行い、理解を求める。
- ・学校を支えてきた地域とのつながりを大切にし、教育の営みによって培われた取り組みは継続していく。
- ・統合する場合は、それによって生まれる学校とその校区の地域住民との間に、新たな関係を創出するよう配慮に努める。

### (2) 児童・生徒の環境への対応

- ・統合する場合は、児童生徒が落ち着いて学習や生活ができるよう、教育委員会は学校への適切な指導や支援、教職員体制上の配慮に努める。
- ・バス運行等については、安全面、体力面、通学時間などの検討に努める。

### (3) 学校指定用品等

- ・統合にあたって、新たに保護者の負担が生じないように、学校指定用品などは統合先の学校においても使用できるよう検討していく。

### (4) 廃校施設・跡地の利活用

- ・統合により使用しなくなる学校施設・土地の活用については、地域住民の総意を踏まえ協議を行う。

## 6 計画の期間

本計画の期間は、平成29年度から平成38年度までの10年間とする。

## 7 計画の見直し

次のような特段の事由がある場合、計画を見直す場合がある。

- ①国の教育制度改革や県の学級編制基準の見直しがある場合
- ②宅地造成・集合住宅の建設に伴うことや、今後の出生・転入などにより児童生徒の大幅な増加が見込まれる場合
- ③小学校において、児童数の減少状況によっては、旧市町の区域を越えて検討する必要がある場合
- ④その他、見直す必要が生じた場合

## 8 計画推進のスケジュール

### 平成 29 年度

- ①庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画の検討
- ②庁内会議による協議・検討
- ③議会説明
- ④庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画の策定
- ⑤保護者や地域住民などに説明

### 平成 30 年度～

庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画に基づき、計画的に実施する。

## 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画

### 付属資料

(参考) : 庄原市学校適正配置検討委員会の提言 (抜粋)

資料 1 : 学校の適正規模・適正配置の検討 (スケジュール) . . . . .	1
資料 2 : 平成 29 年度学校の適正規模・適正配置の検討 (スケジュール) . . . . .	2
資料 3 : 平成 29 年度児童生徒数一覧表 . . . . .	3
資料 4 : 庄原市内の小・中学校再編の状況 . . . . .	4
資料 5 : 庄原市立小・中学校の児童生徒数の推移 (H22~H29) . . . . .	5
資料 6 : 庄原市立小・中学校の児童生徒数の推計 (H29~H35) . . . . .	6
資料 7 : 庄原市立小・中学校の児童生徒数の推移 (H22~H35) . . . . .	7
資料 8 : 庄原市立小学校の児童数の推計 (地域別) . . . . .	8
資料 9 : 庄原市出生数の推移 . . . . .	9
資料 10 : 通学方法別児童数一覧 . . . . .	10
資料 11 : 通学方法別生徒数一覧 . . . . .	11
資料 12 : 庄原市内小中学校位置図 . . . . .	12

## (参考) 庄原市学校適正配置検討委員会の提言

庄原市教育委員会では、平成 28 年度に庄原市学校適正配置検討委員会を設置し、平成 28 年 12 月 20 日付で、次のとおり、庄原市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する提言を受けたところである。

### (1) 適正規模について

#### [小学校]

1 学級あたりの児童数は 20～30 人で、1 学年の学級数は 2 学級以上が望ましい。  
なお、本市の実情を考慮しても、少なくとも単式学級編制が望ましい。

#### [中学校]

1 学級あたりの生徒数は 30 人程度、1 学年の学級数は 2 学級以上が望ましい。  
なお、本市の実情を考慮した場合、1 学年 1 学級の規模でもやむを得ない。

### (2) 適正配置について

#### [小学校]

児童の通学への影響を考慮しながら適正規模を確保するためには、旧市町の区域内において学校の再編を検討すべきであり、特に単式学級編制につながる配置に努める必要がある。

#### [中学校]

既に旧市町の区域内に 1 校の配置となっているが、適正規模を確保するためには、旧市町の区域を越えた学校の再編を検討する必要がある。

### (3) 特に考慮すべきこと

小中学校の再編にあたっては、児童生徒の教育環境の充実を図ることを第一義とするとともに、学校が地域で果たしてきた機能や役割にも十分配慮しながら取り組む必要があることを踏まえ、次の事項については特に考慮すべきこととして要望する。

- ・遠距離通学は距離ではなく時間を優先して検討し、概ね 60 分以内を一応の目安とする。
- ・小学校児童の通学手段は徒歩を基本とし、遠距離通学の場合はスクールバスが望ましい。
- ・中学校生徒の通学手段は徒歩又は自転車を基本とし、遠距離通学の場合は路線バスや汽車又はスクールバスが望ましい。
- ・保護者及び地域住民の声を聞くなど、地域の実情把握に努める。
- ・保護者及び地域住民へ説明や協議を行い、理解を求める。
- ・地域とのつながりを大切にし、教育の営みによって培われた取り組みは継続していく。
- ・再編する場合は、学校と地域住民との間に、新たな関係を創出するよう配慮に努める。
- ・再編する場合は、学校への適切な指導や支援、教職員体制上の配慮に努める。
- ・再編に伴う学校施設等の活用については、地域住民と協議を行う。

学校の適正規模・適正配置の検討（スケジュール）

具体的施策	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	備考
適正配置基本計画策定											
第1グループ		説明会	説明会 準備	準備 統合							
①庄原小（川北小）											
②西城小（美古登小）											
③東城小（八幡小・栗田小）											
④口南小（口北小）											
第2グループ				説明会	説明会 準備	準備 統合					
①庄原小（永末小・高小）											
②板橋小（峰田小）											
③東小（山内小）											
④東城小（小奴可小）											
第3グループ(中学校)							説明会	説明会 準備	準備 統合	準備 統合	
①庄原中（比和中・総領中）											
②口和中（高野中）											

平成29年度学校の適正規模・適正配置の検討（スケジュール）

会議等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
基本計画の策定		○												
教育委員会議		○	○	○	○	○	○	○	○	○				
市長協議・政策企画会議			○	○	○	○	○		○	○	○			
管理職連絡会議										○				
議会説明								○	○	○			教育民生常任委員会調査会 議員全員協議会	
保護者・地域説明会											○			



## 平成29年度児童生徒数一覧表

H29. 5. 1現在

複式

特別支援学級児童生徒数外数

学校名	区分	学級数		1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		合計
		通	特	通	特	通	特	通	特	通	特	通	特	通	特	通	特	
1	庄原小学校	12	3	50	1	56		61		49		46	1	63	2	325	4	329
2	永末小学校	4	1	4		12		4		10		7	1	6		43	1	44
3	高小学校	5		2		5		9		8		10		8		42		42
4	峰田小学校	6		8		8		10		7		9		11		53		53
5	板橋小学校	6	1	16		26	1	24		35		32		23	1	156	2	158
6	東小学校	6	2	16		23	1	14		25	2	21		24	2	123	5	128
7	山内小学校	5	1	6	1	14		6		10		10		11		57	1	58
8	川北小学校	3		1		3		2		5		8		2		21		21
9	西城小学校	6	2	10		10		16	1	13		18		22	1	89	2	91
10	美古登小学校	6	1	11		5		4		19	1	6		16		61	1	62
11	小奴可小学校	4		9		6		5		8		10		5		43		43
12	八幡小学校	3	2	2		2		4		4	1	2	1	6		20	2	22
13	栗田小学校	4	1	5		4		2		3		7		0	1	21	1	22
14	東城中学校	9	2	39	1	37	1	38		52		33		39	2	238	4	242
15	口南小学校	5	3	13		11		9	1	10	2	9	1	6		58	4	62
16	口北小学校	4	1	5		10		10		4	1	6		4		39	1	40
17	高野小学校	6	1	13		13		13	1	12		12		20		83	1	84
18	比和小学校	5	1	6		4		11	1	4		9		9	1	43	2	45
19	総領小学校	5	1	10		13		9		7		7	1	11		57	1	58
小学校	小計	104	23	226	3	262	3	251	4	285	7	262	5	286	10	1,572	32	1,604
	合計	127		229		265		255		292		267		296		1,604		
1	庄原中学校	12	2	126	3	144	5	126	1							396	9	405
2	西城中学校	3	2	26		26		34	2							86	2	88
3	東城中学校	6	3	51	4	59		59	5							169	9	178
4	口和中学校	3	1	14		14	1	20								48	1	49
5	高野中学校	3	1	12	1	14		11								37	1	38
6	比和中学校	3		7		12		7								26		26
7	総領中学校	3		8		13		17								38		38
中学校	小計	33	9	244	8	282	6	274	8							800	22	822
	合計	42		252		288		282								822		
総合計																		2,426

## ■庄原市内の小・中学校再編の状況

## 【小学校】

地域	合併時(H17)		統廃合 年月日	現状(H29)		
	学校名	児童数		学校名	児童数	
庄原	庄原	421	⇒	庄原	329	
	田川	22		H20.4.1		
	永末	38			永末	44
	高	57			高	42
	高南	20		H20.4.1		
	峰田	29			峰田	53
	本	26		H20.4.1		
	板橋	88			板橋	158
	上谷	6		H20.4.1		
	実留	21		H20.4.1		
	東	155			東	128
	山内	57			山内	58
	水後	18		H20.4.1		
	川北	33			川北	21
西城	西城	114		西城	91	
	小鳥原	16	H19.4.1			
	美古登	40		美古登	62	
東城	小奴可	26		小奴可	43	
	内堀	31	H22.4.1			
	八幡	43		八幡	22	
	粟田	26		粟田	22	
	東城	289		東城	242	
	帝釈	17	H22.4.1			
口和	口南	77		口南	62	
	口北	45		口北	40	
高野	高野	124		高野	84	
比和	比和	43		比和	45	
	森脇	18	H20.4.1			
	古頃	7	H20.4.1			
	三河内	16	H20.4.1			
総領	総領	86		総領	58	
合計	31校	2,009	⇒	19校	1,604	

△12校 △ 405 人  
△ 20.2 %

## 【中学校】

地域	合併時(H17)		統廃合 年月日	現状(H29)	
	学校名	生徒数		学校名	生徒数
庄原	庄原	576		庄原	405
西城	西城	106		西城	88
東城	東城	212	H21.4.1	東城	178
	小奴可	40			
口和	口和	55		口和	49
高野	高野	67		高野	38
比和	比和	49		比和	26
総領	総領	49		総領	38
合計	8校	1,154	⇒	7校	822

△1校 △ 332 人  
△ 28.8 %

■庄原市立小・中学校の児童生徒数の推移(平成29年5月1日現在)

資料5

【小学校】

地域	学校名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	児童数の増減
庄原	庄原小学校	366	372	373	374	349	353	347	329	▲ 37 人 ▲ 10.1 %
	永末小学校	<u>51</u>	<u>53</u>	<u>48</u>	<u>50</u>	<u>50</u>	<u>43</u>	<u>50</u>	<u>44</u>	▲ 7 人 ▲ 13.7 %
	高小学校	58	<u>54</u>	49	<u>47</u>	<u>49</u>	<u>50</u>	<u>48</u>	<u>42</u>	▲ 16 人 ▲ 27.6 %
	峰田小学校	<u>33</u>	<u>35</u>	<u>42</u>	<u>45</u>	<u>43</u>	<u>48</u>	<u>52</u>	53	20 人 60.6 %
	板橋小学校	115	127	137	149	164	171	170	158	43 人 37.4 %
	東小学校	161	161	152	145	142	128	128	128	▲ 33 人 ▲ 20.5 %
	山内小学校	59	<u>54</u>	57	<u>60</u>	<u>59</u>	59	55	<u>58</u>	▲ 1 人 ▲ 1.7 %
	川北小学校	<u>17</u>	<u>21</u>	<u>18</u>	<u>17</u>	<u>19</u>	<u>19</u>	<u>21</u>	<u>21</u>	4 人 23.5 %
西城	西城小学校	110	109	118	116	118	109	96	91	▲ 19 人 ▲ 17.3 %
	美古登小学校	<u>52</u>	56	61	<u>54</u>	71	<u>60</u>	<u>60</u>	62	10 人 19.2 %
東城	小奴可小学校	<u>54</u>	<u>48</u>	<u>40</u>	<u>42</u>	<u>43</u>	<u>34</u>	<u>38</u>	<u>43</u>	▲ 11 人 ▲ 20.4 %
	八幡小学校	<u>34</u>	<u>30</u>	<u>33</u>	<u>31</u>	<u>29</u>	<u>26</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	▲ 12 人 ▲ 35.3 %
	栗田小学校	<u>25</u>	<u>23</u>	<u>19</u>	<u>23</u>	<u>21</u>	<u>21</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	▲ 3 人 ▲ 12.0 %
	東城小学校	302	285	290	263	263	257	252	242	▲ 60 人 ▲ 19.9 %
口和	口南小学校	76	68	61	<u>58</u>	<u>58</u>	<u>52</u>	<u>56</u>	<u>62</u>	▲ 14 人 ▲ 18.4 %
	口北小学校	<u>35</u>	<u>32</u>	<u>34</u>	<u>34</u>	<u>35</u>	<u>39</u>	<u>40</u>	<u>40</u>	5 人 14.3 %
高野	高野小学校	93	93	92	93	88	88	87	84	▲ 9 人 ▲ 9.7 %
比和	比和小学校	54	61	55	<u>55</u>	49	55	<u>46</u>	<u>45</u>	▲ 9 人 ▲ 16.7 %
総領	総領小学校	96	88	89	78	72	61	<u>58</u>	<u>58</u>	▲ 38 人 ▲ 39.6 %
計		1,791	1,770	1,768	1,734	1,722	1,673	1,648	1,604	▲ 187 人 ▲ 10.4 %

【中学校】

地域	学校名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	生徒数の増減
庄原	庄原中学校	484	461	460	418	442	409	432	405	▲ 79 人 ▲ 16.3 %
西城	西城中学校	89	83	81	74	67	78	76	88	▲ 1 人 ▲ 1.1 %
東城	東城中学校	194	190	187	209	199	203	187	178	▲ 16 人 ▲ 8.2 %
口和	口和中学校	55	58	61	63	51	54	50	49	▲ 6 人 ▲ 10.9 %
高野	高野中学校	66	63	58	48	51	46	47	38	▲ 28 人 ▲ 42.4 %
比和	比和中学校	39	30	34	32	34	23	25	26	▲ 13 人 ▲ 33.3 %
総領	総領中学校	40	40	36	43	43	49	44	38	▲ 2 人 ▲ 5.0 %
計		967	925	917	887	887	862	861	822	▲ 145 人 ▲ 15.0 %

※ 児童生徒数は、公立学校基本数報告(各年度5月1日現在)による  
 ※ 児童数の二重下線は、複式学級あり  
 ※ 児童数・生徒数の増減は、22年度と29年度の比較による

## ■庄原市立小・中学校の児童生徒数の推計【県教委指定方法による推計】

## 【小学校】

地域	学校名	29年度 (実数)	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	児童数の 増減見込
庄原	庄原小学校	329	316	318	322	307	302	300	▲ 29 人
	永末小学校	44	44	43	41	42	36	37	▲ 7 人
	高小学校	42	40	35	33	29	29	32	▲ 10 人
	峰田小学校	53	51	50	52	49	49	48	▲ 5 人
	板橋小学校	158	156	145	132	126	121	124	▲ 34 人
	東小学校	128	126	125	120	122	114	113	▲ 15 人
	山内小学校	58	57	57	57	59	51	52	▲ 6 人
	川北小学校	21	25	19	17	17	14	14	▲ 7 人
	小計	833	815	792	774	751	716	720	▲ 113 人
西城	西城小学校	91	81	75	74	68	69	69	▲ 22 人
	美古登小学校	62	54	58	48	51	52	43	▲ 19 人
	小計	153	135	133	122	119	121	112	▲ 41 人
東城	小奴可小学校	43	44	40	38	38	37	34	▲ 9 人
	八幡小学校	22	19	19	18	16	16	16	▲ 6 人
	粟田小学校	22	26	22	23	24	23	21	▲ 1 人
	東城小学校	242	238	240	227	217	214	210	▲ 32 人
	小計	329	327	321	306	295	290	281	▲ 48 人
口和	口南小学校	62	66	67	67	67	66	62	0 人
	口北小学校	40	42	42	46	43	41	42	2 人
	小計	102	108	109	113	110	107	104	2 人
高野	高野小学校	84	76	75	76	74	73	71	▲ 13 人
比和	比和小学校	45	43	41	44	39	41	41	▲ 4 人
総領	総領小学校	58	57	60	63	63	60	59	1 人
合計		1,604	1,561	1,531	1,498	1,451	1,408	1,388	▲ 216 人 ▲ 13.5 %

## 【中学校】

地域	学校名	29年度 (実数)	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	生徒数の 増減見込
庄原	庄原中学校	405	417	405	415	395	401	356	▲ 76 人
西城	西城中学校	88	94	93	100	81	74	67	▲ 9 人
東城	東城中学校	178	166	155	165	165	162	147	▲ 40 人
口和	口和中学校	49	41	44	46	54	57	59	9 人
高野	高野中学校	38	44	41	38	32	32	33	▲ 14 人
比和	比和中学校	26	28	25	22	24	19	21	▲ 4 人
総領	総領中学校	38	32	25	23	20	25	27	▲ 17 人
合計		822	822	788	809	771	770	710	▲ 112 人 ▲ 13.6 %

※ 30年度以降の児童生徒数は、県教委指定方法による推計(平成29年5月1日現在)

※ 児童数・生徒数の増減は、29年度と35年度の比較による

■庄原市立小・中学校の児童生徒数の推移(平成29年5月1日現在)【県教委指定方法による推計】

【小学校】

実態 ← → 見込

地域	学校名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	児童数の増減
庄原	庄原小学校	366	372	373	374	349	353	347	329	316	318	322	307	302	300	▲66人 ▲18.0%
	永末小学校	51	53	48	50	50	43	50	44	44	43	41	42	36	37	▲14人 ▲27.5%
	高小学校	58	54	49	47	49	50	48	42	40	35	33	29	29	32	▲26人 ▲44.8%
	峰田小学校	33	35	42	45	43	48	52	53	51	50	52	49	49	48	▲15人 45.5%
	板橋小学校	115	127	137	149	164	171	170	158	156	145	132	126	121	124	▲9人 7.8%
	東小学校	161	161	152	145	142	128	128	128	126	125	120	122	114	113	▲48人 ▲29.8%
	山内小学校	59	54	57	60	59	59	55	58	57	57	57	59	51	52	▲7人 ▲11.9%
	川北小学校	17	21	18	17	19	19	21	21	25	19	17	17	14	14	▲3人 ▲17.6%
西城	西城小学校	110	109	118	116	118	109	96	91	81	75	74	68	69	69	▲41人 ▲37.3%
	美古登小学校	52	56	61	54	71	60	60	62	54	58	48	51	52	43	▲9人 ▲17.3%
東城	小奴可小学校	54	48	40	42	43	34	38	43	44	40	38	38	37	34	▲20人 ▲37.0%
	八幡小学校	34	30	33	31	29	26	22	22	19	19	18	16	16	16	▲18人 ▲52.9%
	粟田小学校	25	23	19	23	21	21	22	22	26	22	23	24	23	21	▲4人 ▲16.0%
	東城小学校	302	285	290	263	263	257	252	242	238	240	227	217	214	210	▲92人 ▲30.5%
口和	口南小学校	76	68	61	58	58	52	56	62	66	67	67	67	66	62	▲14人 ▲18.4%
	口北小学校	35	32	34	34	35	39	40	40	42	42	46	43	41	42	▲7人 20.0%
高野	高野小学校	93	93	92	93	88	88	87	84	76	75	76	74	73	71	▲22人 ▲23.7%
比和	比和小学校	54	61	55	55	49	55	46	45	43	41	44	39	41	41	▲13人 ▲24.1%
総領	総領小学校	96	88	89	78	72	61	58	58	57	60	63	63	60	59	▲37人 ▲38.5%
計		1,791	1,770	1,768	1,734	1,722	1,673	1,648	1,604	1,561	1,531	1,498	1,451	1,408	1,388	▲403人 ▲22.5%

【中学校】

地域	学校名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	生徒数の増減
庄原	庄原中学校	484	461	460	418	442	409	432	405	417	405	415	395	401	356	▲128人 ▲26.4%
西城	西城中学校	89	83	81	74	67	78	76	88	94	93	100	81	74	67	▲22人 ▲24.7%
東城	東城中学校	194	190	187	209	199	203	187	178	166	155	165	165	162	147	▲47人 ▲24.2%
口和	口和中学校	55	58	61	63	51	54	50	49	41	44	46	54	57	59	▲4人 7.3%
高野	高野中学校	66	63	58	48	51	46	47	38	44	41	38	32	32	33	▲33人 ▲50.0%
比和	比和中学校	39	30	34	32	34	23	25	26	28	25	22	24	19	21	▲18人 ▲46.2%
総領	総領中学校	40	40	36	43	43	49	44	38	32	25	23	20	25	27	▲13人 ▲32.5%
計		967	925	917	887	887	862	861	822	822	788	809	771	770	710	▲257人 ▲26.6%

※ 平成29年度までの児童生徒数は、公立学校基本数報告(各年度5月1日現在)による  
 ※ 平成30年度以降の児童生徒数は、県教委指定方法による推計(平成29年5月1日現在)  
 ※ 児童数の二重下線は、複式学級あり  
 ※ 児童数・生徒数の増減は、22年度と35年度の比較による

■庄原市小学校児童数の推計(地域別)

資料8

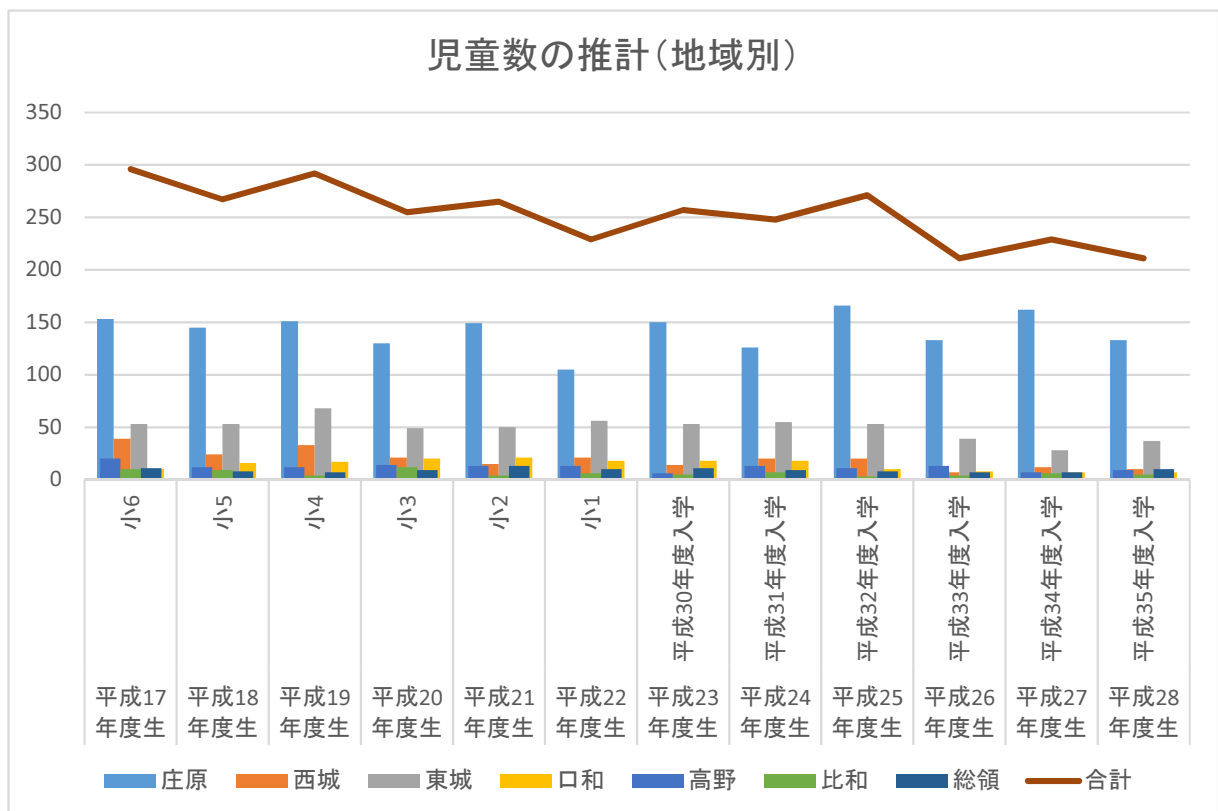
平成29年5月1日現在

【小学校】

出生年度	現在の学年	庄原	西城	東城	口和	高野	比和	総領	合計
平成17年度生	小6	153	39	53	10	20	10	11	296
平成18年度生	小5	145	24	53	16	12	9	8	267
平成19年度生	小4	151	33	68	17	12	4	7	292
平成20年度生	小3	130	21	49	20	14	12	9	255
平成21年度生	小2	149	15	50	21	13	4	13	265
平成22年度生	小1	105	21	56	18	13	6	10	229
	計	833	153	329	102	84	45	58	1,604
平成23年度生	平成30年度入学	150	14	53	18	6	5	11	257
平成24年度生	平成31年度入学	126	20	55	18	13	7	9	248
平成25年度生	平成32年度入学	166	20	53	10	11	3	8	271
平成26年度生	平成33年度入学	133	7	39	8	13	4	7	211
平成27年度生	平成34年度入学	162	12	28	7	7	6	7	229
平成28年度生	平成35年度入学	133	10	37	7	9	5	10	211
	計	870	83	265	68	59	30	52	1,427

※ 小1～小6は、実人数。

※ 平成30年～35年度入学予定者は、住民基本台帳による人数。



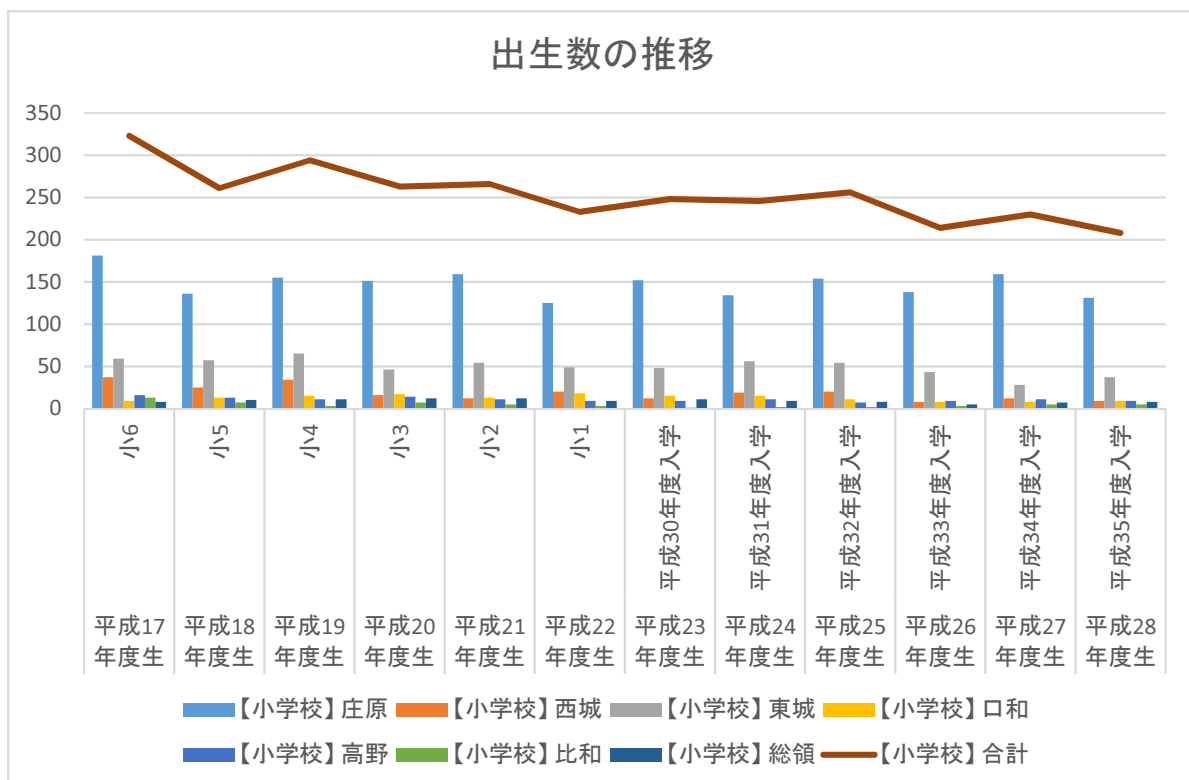
■庄原市出生数の推移(市民生活課届出より)

資料9

平成29年5月1日現在

【小学校】

出生年度	現在の学年	庄原	西城	東城	口和	高野	比和	総領	合計
平成17年度生	小6	181	37	59	9	16	13	8	323
平成18年度生	小5	136	25	57	13	13	7	10	261
平成19年度生	小4	155	34	65	15	11	3	11	294
平成20年度生	小3	151	16	46	17	14	7	12	263
平成21年度生	小2	159	12	54	13	11	5	12	266
平成22年度生	小1	125	20	49	18	9	3	9	233
	計	907	144	330	85	74	38	62	1,640
平成23年度生	平成30年度入学	152	12	48	15	9	1	11	248
平成24年度生	平成31年度入学	134	19	56	15	11	2	9	246
平成25年度生	平成32年度入学	154	20	54	11	7	2	8	256
平成26年度生	平成33年度入学	138	8	43	8	9	3	5	214
平成27年度生	平成34年度入学	159	12	28	8	11	5	7	230
平成28年度生	平成35年度入学	131	9	37	9	9	5	8	208
	計	868	80	266	66	56	18	48	1,402



## 通学方法別 児童数一覧

平成29年5月1日現在

学校名	児童数	徒歩	自家用車	路線バス	スクールバス スクールタクシー	指定学校変更 区域外就学	合計	最も時間のかかる児童について					
								徒歩			路線バス・汽車・スクールバス(タクシー)		
								所要時間(分)	距離(km)	地域名又は住所	所要時間(分)	距離(km)	地域名又は住所
庄原小	329	260	0	0	12	57	329	50	4.0	川手町	27	8.0	濁川町
永末小	44	42	0	0	0	2	44	45	3.1	宮内町	-	-	-
高小	42	34	0	2	6	0	42	40	4.0	馬場	7	4.2	明賀
峰田小	53	27	0	0	21	5	53	30	2.0	春田町	30	12.0	本村町
板橋小	158	112	0	6	23	17	158	50	3.2	是松町	13	8.9	上谷町
東小	128	118	4	0	0	6	128	60	4.7	市町	-	-	-
山内小	58	56	0	0	1	1	58	45	2.5	本郷町	10	3.7	水越町
川北小	21	20	1	0	0	0	21	60	5.2	川北町	-	-	-
西城小	91	70	0	8	11	2	91	30	3.0	西城町大佐	50	20.0	西城町三坂
美古登小	62	41	0	19	0	2	62	28	2.3	西城町八鳥	18	14.5	西城町油木
小奴可小	43	24	0	0	17	2	43	30	3.1	東城町小奴可	35	8.3	東城町千鳥
八幡小	22	15	0	0	7	0	22	40	3.5	東城町田黒	10	5.0	東城町保田
粟田小	22	18	0	0	0	4	22	60	5.0	東城町粟田	-	-	-
東城小	242	184	0	0	46	12	242	45	3.7	東城町川西	40	17.0	東城町帝釈未渡
口南小	62	46	2	13	0	1	62	60	3.2	口和町永田	40	6.6	口和町金田
口北小	40	32	0	0	8	0	40	40	2.5	口和町大月	25	10.1	口和町宮内
高野小	84	36	0	0	48	0	84	30	1.7	高野町新市(南)	30	8.8	高野町高暮
比和小	45	18	0	0	27	0	45	20	1.5	比和町比和下	50	7.5	比和町古頃
総領小	58	29	0	0	28	1	58	45	2.5	総領町中領家	20	12.0	総領町黒目
合計	1,604	1,182	7	48	255	112	1,492	※指定学校変更等を除く人数					
		79.2%	0.5%	3.2%	17.1%		100.0%						



通学方法別 生徒数一覧

平成29年5月1日現在

学校名	生徒数	徒歩	路線バス	汽車	自転車	スクールバス スクールタクシー	バス又は汽車と 自転車の併用	寄宿舍	指定学校変更 区域外就学	その他	合計
庄原中	405	150	104	0	127	0	18	0	2	4	403
西城中	88	28	8	0	12	36	4	0	0	0	88
東城中	178	75	41	0	44	0	0	12	0	6	178
口和中	49	0	0	0	45	3	0	0	1	0	48
高野中	38	10	0	0	21	7	0	0	0	0	38
比和中	26	7	0	0	0	5	14	0	0	0	26
総領中	38	3	0	0	32	2	0	0	1	0	37
合計	822	273	153	0	281	53	36	12	4	10	818
		33.4%	18.7%	0.0%	34.4%	6.5%	4.4%	1.5%		1.2%	100.0%

※指定学校変更  
を除く人数

11

学校名	最も時間のかかる生徒について								
	徒歩			路線バス・汽車・スクールバス(タクシー)・自転車併用			自転車		
	所要時間(分)	距離(km)	地域名又は住所	所要時間(分)	距離(km)	地域名又は住所	所要時間(分)	距離(km)	地域名又は住所
庄原中	60	4.5	小用町	50	16.0	高茂町	50	5.8	大久保町
西城中	35	3.0	西城町入江	25	5.0	西城町平子	15	2.5	西城町八鳥
東城中	45	2.3	東城町川西	60	18.0	東城町保田	50	6.8	東城町戸宇
口和中	-	-	-	30	10.0	口和町	75	8.8	口和町金田
高野中	20	2.0	高野町新市	20	8.1	高野町上湯川	30	7.3	高野町上湯川
比和中	20	1.2	比和町比和	30	10.0	比和町古頃	30	6.0	比和町森脇、比和町三河内
総領中	5	0.3	総領町稲草	20	12.0	総領町黒目	30	7.5	総領町木屋

庄原市内小中学校位置図（平成29年5月1日現在）

